

# 百田尚樹『海賊とよばれた男』<sup>上</sup> 単独 100万部突破！

講談社刊行の『海賊とよばれた男 上・下(各1600円、税別)』の上巻が、2月20日(木)出来予定の38刷で、ついに100万部を突破します。下巻と合わせた累計部数も190万部を超えます。講談社の単行本が1冊で100万部以上を記録するのは、2000年刊行の大平光代著『だから、あなたも生きぬいて』以来、14年ぶりという、歴史的出版です。

『海賊とよばれた男』は、経営がどんなに苦しい時も、「賊首なし! タイムカードなし! 定年なし!」を貫き、出光興産を今日の国際巨大企業に導いた希代の経営者・出光佐三をモデル(作中では国岡鐵造)にした、全740ページを超える、著者渾身の書下ろし歴史経済小説。

20世紀の産業を興し、片や戦争の火種ともなった巨大エネルギー・石油。その石油を武器に、世界と闘った男・国岡鐵造が見た「明治・大正・昭和」とは…。

戦後、日本の石油産業を牛耳ったのは、7人の魔女(セブン・シスターズ)と呼ばれる巨大石油資本(メジャー)。日系石油企業はつぎつぎメジャーに蹂躪され、その軍門に下っていきます。追いつめられる国岡商店。一方、世界一の埋蔵量を誇る油田をメジャーの一つアングロ・イラニアン(現BP)社に支配されていたイランは、アフリカからアジアに渡る民族(独立)運動の高まりの中で、1951年、英資本石油プラントの国有化を宣言し、英国と国交を断絶。激怒した英国のチャーチル首相は、ペルシャ湾に軍艦を派遣するなどイランを経済封鎖します。イランは国際的に孤立、経済的にも疲弊して絶体絶命の窮地に。その時、一隻の日本タンカー「日昇丸」が一触即発のペルシャ湾に向けて神戸港から出港しました――。

「海賊」とよばれた男・国岡鐵造と彼が引き寄せた痛快な人物たちが縦横無尽に暴れまわるこの物語は、2013年「本屋大賞」大賞にも選ばれ、刊行から1年8ヵ月が過ぎた今も、講談社学芸書売上ランキングでは依然トップを走り続けるなど、読者の関心注目を色褪せることなく集め続けています。また、百田尚樹さんの著作では『永遠の0』(講談社文庫)も420万部を突破しました。この快挙を、貴媒体を通じ、どうか幅広い方々にご紹介賜れば幸いです。



## 『海賊とよばれた男』上巻100万部突破 記念コメント



単行本、初のミリオン  
ありがとうございます!  
百田尚樹

『海賊とよばれた男』上巻が100万部を突破したと聞いて、歓喜の声をあげました。

これまで文庫では2冊100万部を記録していましたが(『永遠の0』、『モンスター』)、単行本でミリオンというのは作家の夢です。しかし、これは私の手柄ではありません。戦後の日本を立て直すために尽力した、偉大なる出光佐三の力にほかなりません。佐三氏および彼を支えた素晴らしい男たちの物語を多くの人に届けることができ、本当に嬉しく思います。



上下 累計部数は  
190万部突破!